

清和源氏の勢力拡大

地方に土着した軍事貴族は田地を守るために国司と対立したり、東西で大乱を起こしたりした。では、大乱を平定した側の源経基（清和源氏）・平貞盛（桓武平氏）は、どのような軍事貴族であったか。彼らは、地方の反乱を平定していくことで、徐々に勢力を伸ばした。特に源氏は、鎮圧に失敗した平氏を引き離して台頭した。

○清和源氏の勢力

●軍事貴族の2つのタイプ

軍事貴族は、次の①②のタイプに分けられる。

- ①朝廷との接触を減らしながら、辺境の地方に土着する——平忠常（桓武平氏）など
- ②宮中警備・国司を務めて朝廷との関係を保つ——源経基（清和源氏）・平貞盛（桓武平氏）など

●清和源氏の東国進出

清和源氏⁽¹⁾ _____（経基の子）は摂関家と縁を結び、
969年の⁽²⁾ _____では、密告で⁽³⁾ _____を失脚させた。

↓
1028年、国司ともめた⁽⁴⁾ _____が房総半島で乱を起こすと、
⁽⁵⁾ _____（満仲の子）がこれを鎮圧した。

◇平貞盛の子孫は、(4)の乱の鎮圧に失敗

<乱の2つの意義>

- A. 清和源氏の東国での勢力拡大、桓武平氏の東国での勢力縮小
- B. ①の生き方は既に限界で、②を選んだ軍事貴族は後も活躍

●清和源氏の東北進出と失敗

<⁽⁶⁾ _____（1051~1062年）>
奥羽地方で安倍頼時が受領と対立したことを、
⁽⁷⁾ _____（頼信の子）は東北進出の好機として鎮圧に臨んだ。

⇒(7)は苦戦を強いられ、清原氏の助けで鎮圧した。

↓
源氏は武家の棟梁としての地位確立に成功したが、
奥羽地方には助けを出した清原氏の勢力が拡大した。

<⁽⁸⁾ _____（1083~1087年）>
清原氏一族が跡継ぎ問題でもめると、⁽⁹⁾ _____（頼義の子）は、
⁽¹⁰⁾ _____に荷担して清原氏一族の内紛を解決した。

↓
(9)は東国の武士の功労に私財で報い、その信頼を集めたが、
奥羽地方には(10)の支配が確立した。

⇒(10)は奥州藤原氏の祖藤原清衡となり、陸奥国⁽¹¹⁾ _____を根拠地に、
清衡・基衡・秀衡の3代100年にわたって繁栄した。

◇清衡の父は藤原秀郷の子孫、母は安倍頼時の娘で後に清原氏と再婚

源頼光と妖怪

源頼信の兄頼光は、酒呑童子・土蜘蛛などの妖怪退治で知られる。彼に従事した者に、渡辺綱・坂田金時がいた。



酒呑童子（上）・渡辺綱（左）・源頼光（左）



童子切安綱（頼光の刀）

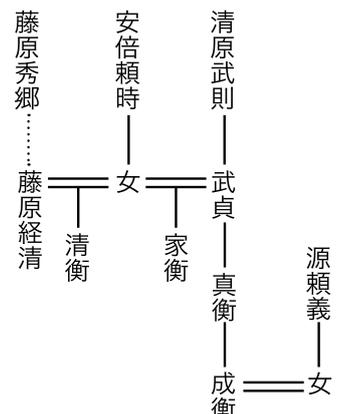


図1 藤原・安倍・清原氏の関係